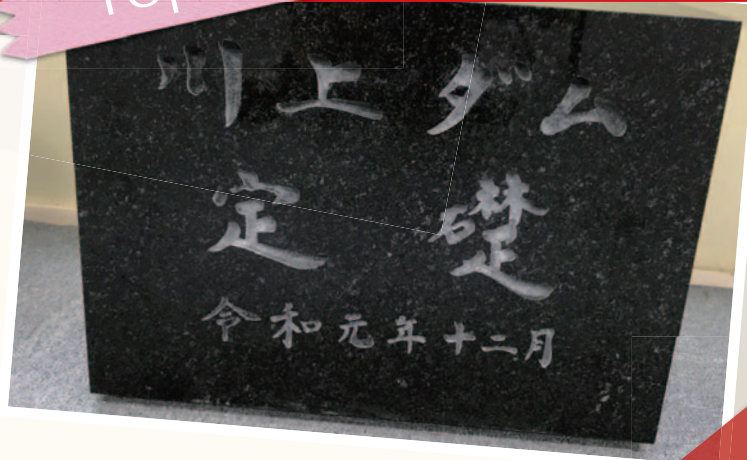


定礎式アルバム 川上ダム

三重県伊賀市で、建設工事を進めている川上ダム。

堤体コンクリート打設、取水設備や放流設備、管理設備等のダム本体工事の最盛期を迎えるにあたり、昨年、令和元年12月15日、ダムの永久堅固と安泰を祈願する定礎式を行いました。

式典は、国会議員、三重県副知事、三重県議会議長、伊賀市長、伊賀市議会議長、国土交通省水管理・国土保全局長、代々受け継がれた大切な土地をお譲りいただいた地権者をはじめとする地元関係者の皆さまと、これから川上ダムと共に歩む地元の子供たち等総勢約300名が参加して行われました。今回は、写真で綴る「定礎式アルバム」でご紹介します。



⑤ 埋納の儀

子供たちがメモリアルストーンに思いをつづり、礎石のそばに並べます。



礎石の周りにモルタルを流し、敷ならします。



式典の始まりの音は、青山太鼓保存会の皆さま。青いお空に届け!

主催者を代表して独立行政法人水資源機構 金尾理事長より挨拶。

続いて川上ダム建設所 瀧上所長より事業経過報告。



日本最大級のタワークレーンでコンクリートを運搬、搬入。タワークレーンもコンクリート用バイブレーターも無人。タブレットによる正確な遠隔操作に驚きです。



タブレット操作!

① 定礎の儀

静かな空気に、木遣り歌が響きます。歌に合わせて、重さ約100kgの礎石を搬入。

② 鎮定の儀

工事を進める道筋をつけるという意味

③ 斎鐙の儀

鎮定の儀でつけられた道をならすという意味

④ 斎槌の儀

斎鐙の儀でならされた道をさらに強固にするという意味



コンクリート用バイブレーターで締め固め。近くにいっても、「音」が静かです。

⑥ 万歳三唱・くす玉開披

「バンザーイ」「バンザーイ」「バンザーイ」の声に合わせて、くす玉が割られました。



工事最盛期を迎え、ダムの出来上がっていく過程が、目の前で展開されていく川上ダム。今後も、地域と連携・協働しながら魅力あるダム造りを進めてまいります。